

Title	巻頭言 絆の結節点からの発想の広がり求めて
Author(s)	牛津, 信忠
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.2, 2013.1 : 1-1
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=4350
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

絆の結節点からの発想の広がり求めて

空前絶後、アメリカ（北米）中の名だたる超人・ヒーローが名を連ねて登場するという映画が日本でも2012年8月に公開された。題して「アベンジャーズ」というこの作品の興行成績が、現在のところ全米第三位、全世界でも公開された国のみの総合計で興行収入歴代三位だという。まさに大ヒット作ということになる。地球の危機に7人のアメリカンヒーローが、あまりにも相容れない性格内容乗り越えて挑戦する。こうした映画を製作せざるを得ないほど、アメリカ映画界が題材に事欠いているのか、客寄せに窮しているのか、この世界の混沌に風穴を開けるための切り札としてのヒーロー総出陣なのか、あるいは、頼りない政治家を助けるためにアメリカ人らしく単刀直入に考えついた妙案なのか、皆目わからない。

しかし何かしなければという焦りと、誰かに頼りたいという願望の反映であることだけは見えてくる。

全米興行成績のみならず、世界においても好成績を上げているのを見ると、受け入れの土壌としての元凶は、アメリカを超えて世界に広がっている、といえそうである。共感の輪は世界を包んでいる。

この状況を見聞するだけで、世界の人々の地球的規模の現実に対する心の緊迫感が伝わってくるようだ。

このヒーローたちが、これまでは一人ですべての悪をなぎ倒し、侵略から地球を救い、愛国心や人類愛に満ちた行為で、危機を克服してくれたのだが、今回は、それぞれの持ち味を生かしてそれぞれが助け合いながらヒーロー役を分担する。超能力者集団の相互支援という形は、これまでも見られたパターンではあるが、今回は規模が違う。巨人たちが相互支援し合って地球存亡の危機に立ち向かう。しかしこの作品をよくよく味合ってみると、ヒーローの一人ひとりがきわめて人間臭く、やはりそうかと思わせる、「あなたもヒーローになれる」パターンが内在している。一人一人が助け合って「この危機を乗り越えよう」というスローガンの代表格としての登場人物たるヒーローなのか。あるいは、「あなたもこの行動者の一人なのですよ、目覚めなさい」と語っているのか。

このような共感共同は戦時下における鼓舞にも、平和な世界づくりにも、福祉社会づくりにも、民族主義運動にも、宗教的統合にも、数限りない目途へ向かう道の土台となるし、またなってきた。

われわれがここで歴史を振り返って思い起こすのは、こうしたキャッチフレーズで動いた時や場において決して幸せが訪れなかったということである。おそらく今求められるのはヒーローたちが結集した全体の動きではなく、もっと目線を心の内側に向けて、生きている今を共にする人々の喜びづくりに参加し合うことではなからうか。小さな交わりの中で本当に今を「生きにくい」と感じている人のところから目線を共にして歩みを合わせながら日々を共に喜べるように改善し努力し合う道はなからうか、と問うことではないか。このより小さきものの集いやその交流の流れが、より世界的になるような時と場を創っていくことが今求められている。

この平凡な当り前さが、この複雑怪奇な世界の中ではかえって必要である。繊細・複雑さいつまでも大鈍を振るって対応していたのでは、世界は雑駁なまま営まれていくことを止めない。

人間と人間の社会はヒーローたちがいじくりまわして好転するほど雑駁にはできていない、もっと繊細なのである。人間の身近な社会も同様、これが国家や広域圏域だからと言って突然に変化することはない。ヒーローたちの雑駁な行為の裏には悲しみ・絶望にくれる人が大勢いることを忘れてはならない。すべての決定は慎重に、弱く小さい生命を踏みつぶすことの無いように、決して自分がヒーローにならないように注意してなしてほしいものである。このような世界の雑駁さの中に、当り前の行為の連続と心の交りから生じる事実の積み重ねを取り戻していきたい。次の言葉は、人間にも人間の社会にもそれを大きく広げた世界にもあてはまるだろう。

「人間というのは様々な絆の結節点にすぎない、人間にとっては絆だけが重要なのだ。」（〔戦う操縦士〕より、サン＝テグジュペリ〔堀口大学訳〕）

絆を取り戻しながら、結節点としての役割に愛を持って臨むことの日常的な大切さを再確認していきたいものである。